



2023年7月13日

じゃらん宿泊旅行調査 2023

【都道府県魅力度ランキング編】

総合満足度1位は大分県 食は石川県が2年ぶりに1位を奪還
特産品・お土産は北海道が調査開始以来、初の1位獲得



株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：北村 吉弘）の観光に関する調査・研究、地域振興機関『じゃらんリサーチセンター』（JRC、センター長：沢登 次彦）は、全国1万5,572人の宿泊旅行者を対象に「じゃらん宿泊旅行調査 2023」を実施しました。この調査は、観光などを目的とした宿泊を伴う国内旅行（出張・帰省・修学旅行などを除く）実態を調べるもので、今年で19回目となります。2022年度（2022年4月～2023年3月）の主な結果は以下の通りです。

【総合満足度】

1位大分県、2位鹿児島県、3位北海道。温泉+αのコンテンツが大分県の魅力

- 大分県が2021年度10位から大きくランクアップして1位に。コロナ禍を経て、宿にゆっくり滞在する旅からアクティブな旅の需要が戻る中、温泉を軸に持ちながらも、まち歩きコンテンツを多く擁する点が評価された。

【地元ならではのおいしい食べ物が多かったランキング】

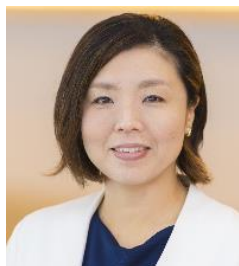
1位石川県、2位北海道、3位富山県。海鮮系イメージの強い3道県がベスト3に。

- 石川県が2年ぶりに1位に振り返り。海鮮系の印象が強い地域が上位に入るが、肉類も健闘。ベスト10には5位に香川県と福岡県、10位に岩手県が入り、いずれも麺類が人気の県が新たにランクインした。

【魅力のある特産品や土産物が多かったランキング】

北海道が調査開始以来初の1位。海産物、菓子類などバラエティの豊富さが人気の要因

- 1位の北海道は2005年の調査開始以来、初めての1位獲得。じゃがいもやミルクを使用した「しょっぱい系」「甘い系」菓子類の豊富さ、海鮮類、ラーメンなど多岐にわたるラインアップが魅力。2位の沖縄県、3位の石川県も同様にバラエティの豊富さが上位に入る要因と言えそう。



JRC 主席研究員
森戸 香奈子

＜解説＞

地域グルメは「一点集中型」から地域を支える「カルチャー」へ
グルメのランキングでは海鮮系が相変わらず強いものの、肉類・菓子類・お茶・日本酒など、その内容がバラエティに富んできています。数年前に見られた一点集中型のマーケティングから、総合力、つまりその地域のカルチャーが感じられるか、ブランド力が求められてきていると言えそうです。またコロナ禍からの回復途上にある今年度の調査では、沖縄を訪れた方の「歓迎ムードを感じた」というコメントが印象的でした。地域全体でお客さまを受け入れる気持ちがきちんとお客さまにも伝わって、旅の満足度につながっていることが感じられます。

本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

◎調査方法 インターネットによる調査

■1次調査

- ①調査目的 全国の宿泊旅行実施者を抽出することに加え、性・年代別の宿泊旅行実施率を知るために実施した
 - ②調査時期 2023年4月1日（土）～2023年4月21日（金）
 - ③調査対象 全国18～79歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）
※2023年調査より、18歳・19歳を追加し調査対象者の年齢範囲を拡大している
 - ④配信数 232万2,266件
 - ⑤調査内容 2022年度（2022年4月～2023年3月）1年間の国内宿泊旅行（出張・帰省・修学旅行などを除く）実態
 - ⑥回収数 8万3,500件（回収率3.6%）
 - ⑦集計対象者 2万件
※2次調査において都道府県別、性・年代別の割り付けに合った回収が得られるように配信した
- ・配信数と割り付けについて
2次調査のセル別目標回収数は、「令和2年 国勢調査」の都道府県別、性・年代別の人口におおむね従うように47都道府県を5ランクに分けサンプル数を割り付けて配信した
ランクごとに6:5:3:2:1の割合で、合計約1万5,400件の回収を目標とした
 - ・2次調査の配信数について
ウェイトバック値のバランスをなるべくそろえるために、県別に均等割り付けではなく、ランクを設けて割り付けを行った上で、1次調査および追加調査の旅行実施者3万2,573件を都道府県ごとに分配し、サンプル数を割り付けて配信した
※回収された8万3,500件のうち都道府県別、性・年代別に割り付けを行い2万件を抽出
性・年代別宿泊旅行実施率を算出

■2次調査

- ①調査目的 全国の宿泊旅行実施者に対して、宿泊旅行の内容を知るために実施した
- ②調査時期 2023年4月7日（金）～2023年4月21日（金）
- ③調査対象 3万2,633件（うち、同居家族モニター60件）
 - ・1次調査において、「昨年度1年間に国内宿泊旅行をした」と回答した人：3万2,573件
 - ・追加調査において、「昨年度1年間に国内宿泊旅行をした」と回答した人のうち、調査協力が得られた60歳以上の家族本人：60件
※調査回収難度が高い60歳以上の回収数を増やすために追加調査を実施した
追加調査は株式会社マクロミルの登録モニターのうち60歳以上の家族と同居しているモニターを対象として、該当家族が同席する上で回答という条件で実施した
(回収数6,839件<配信数13万2,454件 回収率5.2%>、2次調査対象者数60件)
- ④配信数 2万5,421件（うち、同居家族モニター45件）
※配信数は対象者の中から都道府県別、性・年代別の割り付けに合わせてランダムに抽出した
- ⑤調査内容 昨年度1年間に実施した全ての宿泊旅行（出張・帰省・修学旅行などを除く）の行き先と回数について、また一人最大3件までの個別宿泊旅行について、具体的な内容を調査した
- ⑥回収数 1万5,629件（回収率61.5%）
- ⑦有効回答数 1万5,572件（うち、同居家族モニター33件）
（旅行件数ベース3万469件）

■ 総合満足度

1位：大分県、2位：鹿児島県、3位：北海道

大分県が2021年度から9ランクアップで1位を獲得。
2位に鹿児島県が入り、上位2県を九州勢が占めた。

上位10道府県はいずれも9割前後で並び、僅差でのランキングに。1位は大分県が獲得。2位の鹿児島県は圏外からのランクインで、九州2県が上位を席卷した。4位の岩手県、6位の長野県・石川県が圏外からランクインを果たした。

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	85.5	全体平均	84.6
1位 大分県	90.9	1位 和歌山県	91.0
2位 鹿児島県	90.2	2位 沖縄県	90.8
3位 北海道	89.9	3位 三重県	89.7
4位 岩手県	89.3	4位 北海道	88.3
5位 京都府	88.8	5位 京都府	88.1
6位 長野県	88.3	6位 青森県	88.0
6位 石川県	88.3	7位 福井県	87.8
8位 長崎県	87.9	8位 長崎県	87.5
9位 沖縄県	87.7	9位 静岡県	87.2
10位 三重県	87.6	10位 大分県	87.1

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	62.9	全体平均	62.0
1位 石川県	78.3	1位 福井県	79.0
2位 北海道	77.6	2位 石川県	77.1
3位 富山県	76.3	3位 富山県	74.1
4位 宮城県	75.3	4位 鹿児島県	73.4
5位 香川県	73.2	5位 北海道	73.3
5位 福岡県	73.2	6位 三重県	72.7
7位 山形県	73.1	7位 沖縄県	72.4
8位 高知県	72.8	8位 高知県	72.2
9位 広島県	72.2	9位 山形県	72.1
10位 岩手県	72.1	10位 岐阜県	72.0

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	52.4	全体平均	50.9
1位 北海道	67.1	1位 石川県	65.0
2位 沖縄県	66.1	2位 沖縄県	63.4
3位 石川県	62.9	3位 山形県	61.9
4位 宮城県	62.7	4位 愛媛県	61.5
4位 京都府	62.7	5位 北海道	60.9
6位 福岡県	61.0	6位 鹿児島県	60.2
7位 広島県	60.4	7位 京都府	59.3
8位 鹿児島県	59.9	8位 青森県	58.3
9位 秋田県	59.8	9位 長崎県	57.9
10位 長崎県	59.4	10位 高知県	57.8
		10位 熊本県	57.8

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	48.9	全体平均	50.2
1位 大分県	66.4	1位 大分県	68.0
2位 沖縄県	64.1	2位 沖縄県	65.6
3位 群馬県	58.6	3位 群馬県	59.0
4位 北海道	57.4	4位 神奈川県	58.3
5位 京都府	56.7	5位 鹿児島県	58.1
6位 和歌山県	55.9	6位 北海道	57.8
7位 山形県	55.0	6位 石川県	57.8
8位 静岡県	54.9	8位 静岡県	56.9
9位 神奈川県	54.6	9位 京都府	56.1
10位 石川県	54.4	10位 山形県	55.2

(単位：%)

■ 地元ならではのおいしい食べ物が多かった

1位：石川県、2位：北海道、3位：富山県

石川県が1位に返り咲き。海鮮系が人気だが肉類や麺類も多く挙がる。

石川県が2年ぶりに1位を奪還。「のどぐろ」「寿司」など海鮮が挙がる中で「金沢おでん」「能登牛」なども健闘。2位の北海道は海鮮に並んで「ジンギスカン」「ラーメン」も人気で、北海道の3大グルメと言えそう。3位の富山県も「白海老」や「ホタルイカ」など圧倒的に海鮮系が人気。新たにランクインした中では5位の香川県の「うどん」、福岡県の「ラーメン」、10位岩手県の「冷麺」など、麺類が人気。

■ 魅力のある特産品や土産物が多かった

1位：北海道、2位：沖縄県、3位：石川県

北海道は初めての1位。ベスト3の特産品は海鮮、菓子類、工芸品など多種多様な顔ぶれ。

調査開始以来初めて北海道が1位を獲得。ミルクやじゃがいもを使用した菓子類や「毛ガニ」などの海産物、ラーメンなど多岐にわたる。2位の沖縄県は「ちんすこう」「紅芋タルト」「サーターアンダギー」などの菓子類のほか、「シーサー」「やちむん」などの工芸品も。3位の石川県は海産物が圧倒的に人気だが、「日本酒」「金箔製品」「加賀茶」「九谷焼」などバラエティ豊か。ほか、宮城県、福岡県、広島県、秋田県などが圏外からランクイン。

■ 魅力的な宿泊施設が多かった

1位：大分県、2位：沖縄県、3位：群馬県

ベスト3は2021年度と変わらず。
6位に和歌山県がランクイン。

大分県が2年連続12回目の1位を獲得。2位、3位とも2021年度と順位は動かず。1位の大分県は温泉旅館やホテル、2位の沖縄県はリゾートホテルを挙げるケースが多いが、いずれも宿泊施設の固有名詞が挙がるのが特徴。6位に和歌山県が圏外よりランクイン。白浜温泉を中心に温泉旅館やホテルの名前が多く挙がる。

(単位：%)

■ 地元の人のホスピタリティを感じた

1位：沖縄県、2位：鹿児島県、3位：北海道、富山県

沖縄県は18回目の1位。地方のゆったりとした雰囲気や地元の人との交流が印象に残る。

1位の沖縄県は18回連続で1位を獲得。「歓迎ムード」を感じたというコメントも。2位の鹿児島県は圏外よりランクインし、2018年度の3位以来、4年ぶりのベスト3入り。お店や宿の人が「愛想がよい」「ゆったりとした雰囲気」などの意見がある。親切さや人懐っこさなど人柄に加えて、果物をもらったり、会話を楽しんだなど地元の人との交流を通してホスピタリティを感じることが多いようだ。

2022年度 順位	
全体平均	27.3
1位 沖縄県	46.0
2位 鹿児島県	38.0
3位 北海道	37.1
3位 富山県	37.1
5位 秋田県	35.4
6位 大分県	32.9
7位 群馬県	30.9
8位 山形県	30.6
9位 岩手県	30.4
10位 福島県	30.2

2021年度 順位	
全体平均	28.3
1位 沖縄県	46.6
2位 愛媛県	36.8
3位 北海道	36.1
4位 山形県	35.9
5位 石川県	35.0
6位 徳島県	34.8
7位 青森県	33.2
8位 大分県	32.9
9位 島根県	32.8
10位 秋田県	32.5

(単位：%)

■ 子供が楽しめるスポットや施設・体験が多かった

1位：千葉県、2位：沖縄県、3位：和歌山県

千葉県は18回目の1位。ベスト3は15回連続で順位の変動なし。

1位から3位までの順位は2008年度から15年連続で変化なし。1位の千葉県はテーマパークや水族館、景勝地などの名前が挙がるが、「電車の本数が多い」といった利便性を挙げる声も。2位の沖縄県は水族館やビーチに加え「シーサーづくり」などものづくり体験も人気だ。8位に大分県が圏外からランクイン。温泉やリゾートホテル、動物園、テーマパークなどの名前が挙がる。

2022年度 順位	
全体平均	27.4
1位 千葉県	55.4
2位 沖縄県	44.0
3位 和歌山県	40.3
4位 栃木県	34.4
5位 長崎県	34.3
6位 大阪府	33.2
7位 北海道	32.8
8位 大分県	32.2
9位 三重県	32.0
10位 山梨県	30.8

2021年度 順位	
全体平均	26.0
1位 千葉県	46.9
2位 沖縄県	39.4
3位 和歌山県	34.2
4位 長崎県	32.2
5位 三重県	32.1
6位 北海道	30.9
7位 大阪府	30.8
8位 栃木県	30.6
9位 茨城県	30.4
10位 山梨県	29.3

(単位：%)

■ 若者が楽しめるスポットや施設・体験が多かった

1位：千葉県、2位：沖縄県、3位：大阪府

テーマパークや水族館、名所旧跡などの観光地に加えショッピングモールや繁華街など「買い物」も重要。

1位の千葉県は3年ぶりに1位を奪還。人気テーマパーク以外に、スポーツ観戦やショッピングモールなど、千葉県らしいスポット名が挙がる。2位の沖縄県はマリンスポーツやショッピングエリア、水族館など。大阪府の3位は17年連続。テーマパーク、お笑いや音楽のライブイベント、名所旧跡などが人気。6位の福岡県、9位の和歌山県が新たにランクイン。繁華街、ショッピングモール名など買い物できるところが多い。

2022年度 順位	
全体平均	31.0
1位 千葉県	52.8
2位 沖縄県	50.9
3位 大阪府	43.7
4位 東京都	36.5
5位 北海道	36.4
6位 福岡県	35.9
7位 神奈川県	35.4
8位 長崎県	34.5
9位 和歌山県	33.5
10位 大分県	32.4

2021年度 順位	
全体平均	28.4
1位 沖縄県	47.7
2位 千葉県	44.6
3位 大阪府	37.0
4位 長崎県	34.0
5位 北海道	33.8
6位 神奈川県	31.8
7位 東京都	31.2
8位 山梨県	30.7
9位 兵庫県	30.5
10位 大分県	30.3

(単位：%)

■ 大人が楽しめるスポットや施設・体験が多かった

1位：千葉県、2位：沖縄県、3位：京都府

千葉県は7年ぶりの1位。2位の沖縄県はナイトスポットも人気。

1位の千葉県は2015年度以来、7年ぶりの1位。テーマパークやライブ会場、リゾートホテルなどが挙げられる。2位の沖縄県はビーチや水族館、ホテルやショッピングエリアに加えて居酒屋・バーなどのナイトスポット、歴史的史跡など多様なコメントが。3位の京都府は神社仏閣が圧倒的多数を占める。6位の島根県、9位の和歌山県、10位の三重県が圏外からランクイン。

2022年度 順位	
全体平均	42.6
1位 千葉県	56.7
2位 沖縄県	55.1
3位 京都府	53.7
4位 長崎県	49.9
5位 北海道	47.8
6位 島根県	47.5
7位 神奈川県	47.4
7位 大分県	47.4
9位 和歌山県	47.1
10位 三重県	46.4

2021年度 順位	
全体平均	40.2
1位 京都府	52.7
2位 奈良県	51.2
3位 沖縄県	51.1
4位 千葉県	49.3
5位 大分県	46.6
6位 神奈川県	45.2
6位 長崎県	45.2
8位 石川県	44.5
9位 愛媛県	43.5
10位 北海道	43.1

(単位：%)

■ 現地で良い観光情報を入手できた

1位：沖縄県、2位：北海道、3位：京都府

1位の沖縄県は地元の人からの情報への評価が高い。北海道、京都府ではタクシーの運転手も多く挙がる。

ホテルや案内所、パンフレットなど従来の情報源に加えて、SNSやインターネット、地元住民などからの情報が主流。沖縄県は12年連続1位で住民からの情報を挙げる人が多いのが特徴で「地元の人しか知らないスポットを教えてもらった」など。また人気テレビドラマのイベントや、安くチケットが買えたなどのコメントも。2位の北海道、3位の京都府は「タクシーの運転手」というコメントも多い。また京都府では「地図が分かりやすい」などツールの利便性を挙げる声も。

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	27.9	全体平均	28.1
1位 沖縄県	42.9	1位 沖縄県	46.1
2位 北海道	37.5	2位 京都府	36.9
3位 京都府	35.4	3位 愛媛県	36.8
4位 奈良県	34.2	4位 北海道	36.4
5位 富山県	33.5	4位 徳島県	36.4
6位 広島県	32.5	6位 高知県	34.9
7位 秋田県	31.6	7位 鹿児島県	34.2
8位 鹿児島県	31.1	8位 島根県	33.5
9位 大分県	30.9	9位 石川県	32.7
10位 島根県	30.8	10位 奈良県	31.5

※ 2011年度からの追加調査項目

■ ご当地ならではの体験・アクティビティが楽しめた

1位：沖縄県、2位：群馬県、3位：大分県

沖縄県が3回連続1位で2位に10ポイント超の差。観光資源や景勝地を活用したアクティビティが人気。

沖縄県が3年連続1位。マリンスポーツやイルカなどの動物とのふれあい体験など海にちなんだ体験が多い。ヨガやジョギングを挙げる人も。2位の群馬県は温泉やスノーアクティビティ、景勝地の散策やパラグライダーなどのアクティビティも人気。3位の大分県は温泉や「地獄めぐり」など。5位の鹿児島県、7位の栃木県・千葉県、9位の長崎県が圏外よりランクイン。温泉や海などの観光資源、景勝地を活用したアクティビティなどが主流だ。

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	35.3	全体平均	35.3
1位 沖縄県	56.8	1位 沖縄県	53.8
2位 群馬県	46.3	2位 徳島県	45.5
3位 大分県	45.1	3位 大分県	45.2
4位 北海道	44.7	4位 長野県	44.3
5位 鹿児島県	43.2	5位 北海道	43.1
6位 和歌山県	40.5	6位 山形県	42.2
7位 栃木県	40.4	7位 和歌山県	42.1
7位 千葉県	40.4	8位 群馬県	40.8
9位 長崎県	39.9	9位 青森県	40.7
10位 山梨県	39.8	10位 岐阜県	40.2

※ 2020年度からの追加調査項目

<ランキングの算出方法> ※集計は各都道府県への宿泊旅行件数がベース

- ①訪問した旅行先の評価を「そう思う」「ややそう思う」「ふつう」「あまりそう思わない」「そう思わない」の5段階から選択
- ②「そう思う」「ややそう思う」計の割合が高い順にランキング
- ③総合満足度においては「とても満足」「やや満足」「ふつう」「やや不満」「とても不満」のうち、「とても満足」「やや満足」計の割合が高い順にランキング

<コメントの回答方法> 「そう思う」「ややそう思う」と回答した設問に任意でコメント記入

※対象設問：「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」「魅力のある特産品や土産物が多かった」「魅力的な宿泊施設が多かった」「地元の人ホスピタリティを感じた」「子供が楽しめるスポットや施設・体験が多かった」「若者が楽しめるスポットや施設・体験が多かった」「大人が楽しめるスポットや施設・体験が多かった」「現地で良い観光情報を入手できた」「ご当地ならではの体験・アクティビティが楽しめた」

■ 特定のイベントやアクティビティに興味があったから

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	36.1	全体平均	33.8
1位 沖縄県	48.1	1位 沖縄県	44.7
2位 大阪府	47.1	2位 大阪府	44.5
3位 千葉県	46.3	3位 千葉県	44.0
4位 東京都	43.4	4位 北海道	40.7
5位 北海道	42.6	5位 長崎県	39.9
6位 愛知県	41.2	6位 東京都	38.3
7位 長崎県	40.6	7位 茨城県	37.3
8位 福岡県	40.5	8位 福岡県	36.9
9位 香川県	38.2	9位 福井県	36.5
10位 山梨県	37.5	10位 宮城県	35.0
10位 広島県	37.5	10位 愛媛県	35.0

■ テレビや雑誌などで話題になっていたから

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	23.7	全体平均	23.3
1位 北海道	34.1	1位 北海道	33.2
2位 沖縄県	32.6	2位 長崎県	32.3
3位 長崎県	29.6	3位 京都府	29.3
3位 千葉県	29.6	4位 沖縄県	29.0
5位 京都府	27.0	5位 石川県	27.9
6位 石川県	26.9	6位 大分県	26.0
7位 島根県	26.1	7位 山口県	25.7
8位 大分県	26.0	8位 神奈川県	25.5
9位 神奈川県	25.7	9位 千葉県	24.4
10位 群馬県	25.5	10位 愛媛県	24.1

■ 特定の観光地・観光スポットに興味があったから

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	65.3	全体平均	63.1
1位 奈良県	79.8	1位 奈良県	77.1
2位 鹿児島県	77.1	2位 島根県	76.8
3位 高知県	76.9	3位 三重県	74.6
4位 島根県	75.6	4位 長崎県	73.9
5位 広島県	75.0	5位 京都府	73.3
6位 京都府	74.6	5位 鹿児島県	73.3
7位 徳島県	73.9	7位 沖縄県	72.4
7位 長崎県	73.9	8位 岐阜県	72.1
9位 北海道	73.7	9位 愛媛県	71.5
10位 千葉県	73.4	10位 和歌山県	71.1
10位 三重県	73.4		

■ そこならではの食・特産品に興味があったから

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	47.6	全体平均	46.5
1位 北海道	65.3	1位 福井県	62.8
2位 高知県	63.6	2位 北海道	61.0
3位 石川県	62.2	3位 長崎県	59.8
4位 富山県	62.1	4位 高知県	59.7
5位 広島県	62.0	5位 石川県	59.2
6位 香川県	61.4	6位 鹿児島県	58.8
7位 沖縄県	60.0	7位 沖縄県	55.2
8位 三重県	56.2	8位 山形県	54.9
9位 鹿児島県	55.4	9位 三重県	54.6
10位 長崎県	55.3	10位 佐賀県	53.5

■ 良い宿・ホテルがあったから

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	55.2	全体平均	59.5
1位 大分県	71.2	1位 大分県	71.1
2位 栃木県	71.0	2位 静岡県	69.5
3位 群馬県	67.7	3位 群馬県	68.7
4位 和歌山県	65.8	4位 三重県	68.6
5位 静岡県	64.7	5位 神奈川県	68.4
6位 福島県	61.8	6位 和歌山県	67.0
7位 山形県	61.0	7位 福島県	65.4
8位 神奈川県	60.9	8位 新潟県	65.3
9位 長野県	60.1	9位 栃木県	65.2
9位 京都府	60.1	10位 岐阜県	64.7
9位 兵庫県	60.1		

■ 魅力的な温泉があったから

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	36.7	全体平均	41.7
1位 大分県	74.1	1位 大分県	74.6
2位 群馬県	69.4	2位 群馬県	72.8
3位 山形県	65.2	3位 岐阜県	62.1
4位 栃木県	59.2	4位 鳥取県	60.2
5位 福島県	58.4	5位 山形県	59.8
6位 佐賀県	57.6	6位 和歌山県	59.7
7位 岐阜県	56.5	7位 鹿児島県	59.3
8位 和歌山県	55.0	8位 静岡県	58.7
9位 鳥取県	54.7	9位 栃木県	58.6
10位 熊本県	53.6	9位 佐賀県	58.6

<ランキングの算出方法> ※集計は各都道府県への宿泊旅行件数がベース

- ① 訪問した旅行先を選んだ理由を「当てはまる」「やや当てはまる」「どちらともいえない」「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の5段階から選択
- ② 「当てはまる」「やや当てはまる」計の割合が高い順にランキング

リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>